

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・17〉 いわき市立内郷第一中学校	
<実施日>	平成27年9月8日(火)、10月20日(火)、11月24日(火) 平成27年12月15日(火)、平成28年6月7日(火)、7月12日(火)	
<実践教科等>	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。	
1 理科	2 学級活動	3 総合的な学習の時間
		④ その他(朝の時間)
<実践内容>		
1 実施日	年6回(6~12月)の火曜日の朝の時間 (8:00~8:10)	
2 場所	各教室	
3 指導方法	担当による放送	
4 資料	「中学生・高校生のための放射線副読本」等	
5 指導内容	平成27年 9月・事故からの復興・再生に向けた取組 (放射線モニタリング) (除染の取組) (地域の復興・再生に向けて) 10月・原子と原子核 ・放射線の種類と性質 11月・放射線による影響 ・原子力災害時の安全 12月・非常時における放射性物質に対する防護 ・退避や避難の考え方 平成28年 6月・福島第一原子力発電所の事故 ・原子力事故による被害 (事故に伴う住民の避難) 7月・原子力事故による被害 (風評被害、いわれない偏見・差別) ・事故からの復興・再生に向けた取組 (食品安全に関する基準) (放射性物質に関する検査体制の構築)	
<成果>	・一斉に指導をするので、各担任の指導力に差が出ない。 ・本校では、外部の講師を招いての講演会(年1回:平成27年度は消費者庁に依頼)を実施している。生徒達も予備知識があるので真剣に聞いている。	
<課題>	・毎年同じ資料での継続指導によって、知識として身につけていくが、新しい知識も大切と感じている。最新の資料での指導も今後検討していく。 ・放射能の指導に関しては、一斉指導後に担任から補足指導があれば、より知識として身につくが、教師の指導力に差があるので徹底していない。 ・震災から5年以上が過ぎ生活も落ち着いてきた。そのため、放射能に関する教育に対して、生徒によっては意識が薄れてきている。また、今の中学生は、当時小学校の低学年であり、重大な事故という認識がないように感じている。	
資料作成担当者職(教頭)氏名(宮崎 寿夫)	学校電話番号(26-3726)	

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月~平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)